

Sustainability Action Book 2023-2024



CONTENTS

Top message

未来からほめられるアクションを！ 02

Sustainability policy

スコープグループ サステナビリティ方針 03

Special feature

サステナビリティは生物多様性の時代に！ 株式会社ワンプラネット・カフェ様 インタビュー 04

Sustainability Action Report 2023-2024 未来へつながるアクション

Business development

未来につながる貢献を志に、事業開発に取り組んでいます。 06

Independent activities

未来につながる貢献を志に、自社活動に取り組んでいます。 10

Communication design

未来につながる貢献を志に、コミュニケーションデザインに取り組んでいます。 13

Investigation

買い物のサステナビリティ意識 店舗戦略へのヒントを探る 16

SDGs calendar 2024-2025

未来へつながるアクションを！ 世界/日本のSDGsイベントをピックアップ 17

表紙デザインについて

Sustainability Action Book 2023-2024



2024年度の新入社員が構想・企画しました。ブックの存在意義は「アクションの共有で共鳴を起こす」。表現コンセプトは「つながれ！アクション 望む未来は企画とワクワクから」とし、「みんなでほめあえるパーティーが未来でたくさん開かれたらいい」との思いをデザイン化。ワクワクする赤をベースに、本誌に登場するサステナブルなアイテムをモチーフとしました。バナナペーパーの原材料となるバナナの茎に実る果実、ミツバチのホテルの恩恵であるはちみつ瓶、生物多様性を尊重する人と動物の手。そして、ボトルキャップアートのケーキに火をともし、ほめあえる未来を表現しています。



スコープグループ代表
横山 繁

Top message

未来からほめられるアクションを!

世界経済の発展とともに、環境、社会、人権などさまざまな問題が広域化する中、コロナ禍という未曾有の出来事に直面し、資本主義を貫き通してきた時代は終わりを迎えようとしています。世界が立ち止まり社会を俯瞰するこの機会に、私たちも企業としての存在意義を改めて考え、未来に向けたパーパス(志)を策定いたしました。今後、コーポレートサイトでもご紹介します。

これから私たちを導いていくパーパスは、社員が主体となり、幾度となく話し合いを重ね作り上げたものです。未来で活躍する世代が、「未来ではこうありたい」と自らが思い描いた姿を実現するための指針で、会社としてのパーパスであると同時に、社員一人ひとりが個人のパーパスを確立するための呼び水でもあります。

私たちは創業以来、お客様を通じて消費者の豊かな暮らしの一端を担う中で、時代のニーズに応じて変わり続けてきました。これからも生き残っていくには、変化を止めず進んでいかなければなりません。それには、自分たちを客観視できる外からの視点がとても重要です。会社というコミュニティだけでなく、お客様、取引先様、社外のコミュニティなどさまざまな人と関わることは、思いや考えを

より良い方向に変化させ、多くの課題解決につながります。そうして関わった多くの方が、それぞれ自分事として社会の課題に向き合い居心地の良い環境を実現していくことが、これからの「仕事」における真意であると思います。

未来のことは誰にも分かりません。「未来の姿なんて想像できない」と思う人もいるでしょう。ですから、少し先の「こうなったらいいな」を目指し、今できることに精一杯取り組む行動を起こすのが大切だと考えています。その積み重ねがやがて自分のパーパスとなって一隅を照らし、未来からほめられるようなアクションになっていくはずですよ。

私のパーパスは、自分と関わる人たち全てが楽しく生き生きと暮らせる社会にすることです。そのためにはまず、社員が自由に自己を表現し、意見を交換しながら互いを高め合える環境で、「ここにいて良かった」と思えるコミュニティの実現を目指しています。

スコープグループが掲げるパーパスが、社員一人ひとりのパーパスの発見につながることを願っています。その力によって、私たちは必ず未来からほめられる会社になり、関わっていただく人たちの人生も明るく豊かなものになると信じています。

スコープグループ サステナビリティの考え方

私たちはスコープグループの未来に向けて、「機会への対応」と「リスクへの対応」を両軸で推進していきます。

機会の マテリアリティ

スコープグループの
パーパスに基づき自社、並びに
得意先企業のサステナビリティ活動
における具体的な成果創出の
支援を通じて、社会的な価値創造に
貢献していきます。

リスクの マテリアリティ

スコープグループが取り組む
サステナビリティ重点9項目を
特定しました。
この重点項目に従って、
企業として求められる責任を
果たしていきます。

スコープグループ サステナビリティ方針

スコープが支持する「国連グローバル・コンパクト」10原則および国際規格ISO26000における社会的責任の原則、中核主題やGRIスタンダードに基づき、スコープが取り組むサステナビリティ重点9項目を特定しました。この重点項目に従って、行動計画を立案し企業として求められる責任を果たしていきます。

スコープが取り組むサステナビリティ重点9項目は「コーポレートガバナンス」「人権」「労働」「環境」「公正な企業活動」「品質・安全性」「情報セキュリティ」「サプライチェーン」「地域社会」です。

コーポレートガバナンス	人 権	労 働
環 境	公正な企業活動	品質・安全性
情報セキュリティ	サプライチェーン	地域社会

このサステナビリティ方針は、スコープが、スコープの強みである「発想力」と「実現力」を最大限発揮し、地域・企業・モノ・ヒトの見えざる価値を見つけ、磨き、つなげていくことで生まれる新たな価値の連鎖をつくりだす仕掛人となるための土台となるものです。

今後、コーポレートサイトでもご紹介します。



 **One Planet Cafe®**

×
SCOPE
GROUP

株式会社ワンプラネット・カフェ

代表取締役社長

エクベリ聡子さん

取締役

環境マネージャー

パオ・エクベリさん

株式会社スコープ

営業統括本部

皆川一郎

Special feature

サステナビリティは生物多様性の時代に！ 株式会社ワンプラネット・カフェ様 インタビュー

2018年より本格化したスコープグループのサステナビリティ推進における礎の構築や、食品ロス削減アプリサービスの事業立ち上げに携わっていただいた株式会社ワンプラネット・カフェのエクベリご夫妻。長年、持続可能性を追求し活動を続けるお二人に、今後のサステナビリティの潮流や企業への期待を伺った。

日本社会でのサステナビリティ意識の変化

皆川 初めてお会いした2018年から約5年が経過しました。日本におけるサステナビリティの変化をどう感じますか。

ワンプラネット・カフェ（以下OPC）二つの出来事で、社会的な合意が形成された5年間でした。一つ目が、コロナ禍の経験です。働き方やコミュニケーション方法などが大きく変わり、不幸な出来事ではあったものの、見えない世界の人たちともつながっていることを知らされました。二つ目が、日本でも2020年に脱炭素宣言が出され、ゼロカーボン社会の推進がオフィシャルになったことです。今ではそれをどのように事業に入れていくかが当然のように語られ始めています。サステナビリティの視点では非常に大きな出来事だったと思います。

皆川 昨年から私たちが展開する食品廃棄物削減アプリへの問い合わせが一気に増え、賞味期限間近な商品に対する消費者の意識もかなり変わっ

てきたと感じています。

OPC 「グリーントランスフォーメーション」という言葉を新聞はじめあちこちで見ようになり、消費者視点では「エシカル」が一般的になりましたね。

世界の潮流は「生物多様性」へ

皆川 これからのサステナビリティを方向付ける世界的な潮流はどのようなものでしょうか。

OPC 「気候変動」「生物多様性」は急務の課題です。これらは互いに依存していて切り離すことができません。そこで提示したい重要キーワードは「クライメートポジティブ」「ネイチャーポジティブ」です。「クライメートポジティブ」は温室効果ガスの排出量よりも削減する量を多くすることで、「ネイチャーポジティブ」は自然生態系の損失を食い止め、回復させることです。

皆川 確かに、今までは気候変動や脱炭素に注目が集まっていましたが、これからは生物多様性だといわれていますね。

OPC この50年で生き物の数が約69%減ったといわれ、長期にわたり減少傾向にあります。それを、2030年を機に増加に転じさせようということが、2022年に開催されたモントリオールの国際会議で合意されました。2030年はSDGs達成の期限でもあり、大事な年になります。ネイチャーポジティブについては、これまで合意された国際基準よりも早く具体的な目標がまとめられました。これをアクションに移すため、国の法規制、産業界でのルールづくり、企業による事業化などが速いスピードで動くだろうといわれています。これは、リスクと可能性、両方の意味で見る必要があると感じます。皆川 生物多様性に対する取り組みで、分かりやすい事例を教えてくださいませんか。

OPC 農作物についてはこれまで農薬や有害な化学物質を使わないなど、オーガニック系のワークグループで取り上げられてきましたが、これからは生物多様性とのつながりでコミュニケーションされたり、規制がかかる形になっていくと思います。オーガニックコーヒーなどは、生物多様性的な価値としてさらにコミュニケーションされてくるでしょう。世界の主要農作物の75%以上がミツバチを中心とした花粉媒介者の影響を受けているといわれています。つまり、ミツバチを守ることも生物多様性につながるのです。スウェーデンでは、公園に「ミツバチのホテル」、バス停の屋根の上に「Bee Stop」と呼ばれる花壇を数多く備えるなど、都市の中でもミツバチが生息しやすい環境をつくり保護しています。



スウェーデンの公園に設置されたミツバチのホテル。

皆川 御社が展開しているバナナペーパー（ワンプラネットペーパー）も、バナナの茎を原料に使うことで気候変動、生物多様性の問題解決に貢献していますね。

OPC その通りです。アフリカのザンビアにあるバナナペーパーの繊維工場では、産業を育て雇用を生み出していることに加え、1年で成長するバナナの茎を主原料としているので、森林の保護にもつながっています。さらに、森林は絶滅危惧種を含む野生動物の生息地であることから、野生動物の保護にもつながります。パルプを原料とする紙に比べ、



バナナペーパーは、アフリカ・ザンビアの工場で作られています。

バナナペーパーはサプライチェーン全体でのCO₂排出量が少なく、クライメートポジティブを実現した珍しい紙でもあります。

サステナビリティ先進国、ヨーロッパの現状

皆川 ヨーロッパにはサステナビリティ先進国が多いですが、日本のビジネスに影響しそうな新しい動きはありますか。

OPC グリーンウォッシング禁止法が2024年2月に欧州連合（EU）で採択されました。根拠のない「環境に優しい」などの表示を禁止する法令が施行されたのです。ヨーロッパでは、環境に配慮しているように見せかけた「グリーンウォッシュ」でサステナビリティをコミュニケーションし、セールストークにする傾向が加速しています。その動きに対し、本物だけがグリーンをうたえるようにするための規制です。おそらく、数年遅れで日本にもその動きが出てくるのではないかと考えています。

企業のつながりで目標達成を目指す

皆川 今後の日本企業によるサステナビリティ活動に期待することなどお聞かせください。

OPC 私たちは多くの方々と接する機会がありますが、「自分たちだけでは何もできない」という企業様が多いです。そういった企業様が横でつながり、協力し合いながらコラボレーションできればいいですね。サステナビリティはつながりやすいテーマだと思うので、私たちが積極的に企業様同士をつないでいきたいと考えています。

One Planet Café®

株式会社ワンプラネット・カフェは、日本国内外を拠点に環境やサステナビリティをテーマにしたコンサルティング、講演・視察ツアーの開催、バナナペーパーの生産と販売事業を展開している。2016年にフェアトレード認証（WFTO）を取得、2020年には経済産業省の「SDGsに取り組む良い事例15社」として認められている。

Business development

未来につながる貢献を志に、**事業開発**に取り組んでいます。



2024年2月23日に行われた三者調印式。左から、離島百貨店代表理事の青山富寿生氏、スコープ代表取締役社長の横山繁、島根県海士町町長の大江和彦氏。

離島百貨店・島根県海士町・スコープ 未来に向けた島づくりを目指し連携協定を締結

2023年8月、スコープは一般社団法人離島百貨店との業務提携を発表し、離島地域と企業による連携事業の構築、地域と都市部の交流の活性化に取り組んでいます。

さらに、2024年2月には「関わり続けたい島づくり」をビジョンに、離島百貨店・島根県海士町・スコープの三者で連携協定を締結。離島はじめ地方への人材還流を促進し、関係人口創出と関係深化を目的に、「関係人口経営」という新しい地域経営スタイルの実証・構築に向け、次の3つの項目を軸に相互協力を進めていきます。

- ①《大人の島留学》事業を核とした、地方と都市部の人材還流促進
- ②地域DXによる関係人口拡大・深化と地域エコシステムの構築
- ③その他地域の活性化に資する事業の促進

多くの地域が人口減少による課題を抱える中、地域に人を定着させる新たなモデルを構築することで、地方と都市部の企業双方に対する価値を創造していきます。

その第一歩として、海士町への就労型お試し移住制度《大人の島留学》への参加募集イベント開催のサポートを行うとともに、さらなる情報発信のため《大人の島留学》公式LINEを立ち上げるなど、さまざまな接点づくりに挑戦しています。



三者調印式は日本橋のアンテナショップ「離島百貨店」で開催。



全国離島のポータルサイト「離島百科」



ソーシャルデザイン事業部
岡本優人

世界中の小売店舗から食品ロス・廃棄ロスをなくしたい！ グローバルなネットワークで社会課題に取り組んでいます

世界が認める導入効果！

有効期限管理ツール

Semafor
セマフォー

廃棄ロス
40%
削減

作業時間
80%
削減

クレーム
97%
削減



whywaste Japan

リテールテック（大阪・東京）やドラッグストアショーに出展し、多くの注目を集めた。

2020年6月、スコープはスウェーデンのフードテック企業Whywaste社とグローバルパートナーシップを締結し、有効期限管理アプリ《Semafor》（セマフォー）の日本でのサービスを開始しました。年々、《Semafor》は認知度を高め、契約店舗も増加しています。現在、食品スーパー、ドラッグストア、百貨店の銘品コーナーほか、空港内のスーベニアショップでも採用されています。

日本国内では、15の小売リチェーンが採用



世界20カ国、60以上の小売リチェーンが採用



Semafor



[Semafor 公式サイト](#)

《Semafor》（セマフォー）は、期限チェックに必要な作業工程と廃棄ロスが発生するプロセスを徹底的に分析し、開発されました。期限チェックの工数を最低限に抑えて作業時間を大幅に削減すると同時に、リスクのある商品を監視し、廃棄ロスを削減します。



Whywaste Japan
事業部
遠藤和幸

毎週、スウェーデンの開発チームとの定例オンラインミーティングを行い、日本国内はもちろん、世界中の小売店舗が抱える3つの問題、①期限チェックの膨大な作業負担、②チェックの精度に確信が持てない、③廃棄ロスの解決に向け、ディスカッションを重ね、サービスの向上に努めています。世界中の小売店舗から食品ロス・廃棄ロスをなくすことが私たちの願いです。



Kristina Belfrage
（クリスティーナ・ベルフレイジ）
カスタマーサクセス ディレクター

スコープ社とともに効率的で環境に配慮したテクノロジーを日本で展開できることを誇りに感じます。私たちはさらに協力し、ソリューションを改善し、より多くの小売業社様とのパートナーシップを築いていくことを目指します。

パソコン作業のDX化で労働力不足を解消 持続的に成長を支えるロボット・マイケル



次世代デジタル派遣スタッフ
Robot-Michael
ロボット・マイケル

こんにちは、次世代派遣スタッフの
ロボット・マイケルです。
企業の未来を守るDX化サービスで
労働力不足を解決します！

労務管理 ソフトウェア連携	教育研修業務 調整管理	経理 ソフトウェア連携 請求確認、回収確認等	
市場調査 データ分析	ドキュメントの クラウド管理	見積り作成	ヘルプデスク

ロボット・マイケルが対応可能な業務の一例。派遣先の課題に合わせてプログラムを最適化することはもちろん、派遣開始以降も業務内容のスキルアップに対応している。

Robot-Michael
ロボット・マイケル



ロボット・マイケル
公式サイト



第二営業部営業
推進グループ
村上 忍

日本では少子高齢化による労働力不足の加速が予測され、働き方改革で業務効率化を促進するさまざまなツールが普及しています。しかし、ツールによって業務を効率化することはできても、今度はそのツールを使う人が偏り、属人化の解消には至らないのではないのでしょうか。ロボット・マイケルはこれまで人が行っていたパソコン業務をプログラミングしたソフトウェアロボットで、作業の無人化を図ります。ロボット・マイケルが提供する業務プログラムは企業の資産となり、将来にわたり持続的な成長を支えるサービスであると考えています。

未来志向の自己実現コミュニティ CC (=CREATIVE COMMUNITY) 神楽坂



スコープ社外のさまざまな業種に携わる者同士が、互いの経験やスキルを生かし、社会貢献のアイデアを形にするために活動している。CC神楽坂の室内家具は、紀伊半島・熊野の山を守るプロジェクトチーム「Boku Moku」が制作。虫の食害を受けた「あかね材」を使用している。



CC神楽坂
公式サイト



ソーシャル
デザイン事業部
本田博通

CC神楽坂は、多様なバックグラウンドを持つ人たちが集まり、自由闊達に個性を發揮できる創造的な場です。会社の垣根を越え、それぞれの理想的な働き方、ライフスタイルを探り、描き、実装できる未来志向の自己実現コミュニティを目指しています。社外のさまざまな才能を集め、地域課題や社会課題を解決する活動、案件連携、事業を創出するため、月に一度、近隣で暮らすオフィスワーカーやフリーランスが集い、地域交流会を行っています。現在、ローカル地域での越境学習、交流拠点づくりの計画を進行中です。

国民の体と心の健康増進を目指し 日本マーチングリーグ公式大会を主催



《第2回東京ベイサイドツーデーマーチ》には全国からたくさんのウォーカーが集まり、快晴の中、開放的な景色を眺めながらウォーキングを楽しんだ。(2023年10月21日・22日)

一般社団法人 日本ウォーキング協会
JAPAN WALKING ASSOCIATION



日本ウォーキング協会
公式サイト



ソーシャル
デザイン事業部
寺林和郎

ウォーキングは、老若男女どなたでも気軽に楽しめる運動です。ウォーキングが日本を元気にし、全ての人々の健康につながることを目指し、スコープでは《東京ベイサイドツーデーマーチ》を主催しています。大会に参加された皆様には、これをきっかけにウォーキングを継続していただき、健康増進や健康維持、リフレッシュに役立ててもらえるよう願っています。一般社団法人日本ウォーキング協会と業務提携する中、本イベントを始めとした各種ウォーキング大会のほか、新たなイベント、コンテンツなどを提供してまいります。

廃棄素材に新たな価値を与える アップサイクルブランド《COIM》(コイン)



0 (廃棄物) から1 (新しい価値) を生み出し続けるというブランド理念から、全てのプロダクトには「01」のロゴが入っている。

COIM



COIM
オンラインショップ



ソーシャル
デザイン事業部
岡本優人

《COIM》(コイン)とは、さまざまな事業活動の中で廃棄物とされてきた規格外品や素材をアップサイクルし、製品化したスコープのオリジナルブランドです。使用済みエアバッグなどをアップサイクルし、《MA-1》を作り上げたのを皮切りに、2023年5月にはブランドサイト兼オンラインショップを開設しました。多様化するライフスタイルにおいて「長く使える大切なもの」として選ばれるものづくりを目指し、消費者に対し取り組みを広げ、企業の皆様と新たな事業をともに推進するきっかけを作ります。

未来につながる貢献を志に、**自社活動**に取り組んでいます。

社会課題解決に向けた発想の刷新！ スウェーデンのサステナビリティ視察ツアーを開催



Whywaste Japan
事業部
小川訓昌

2023年6月19日～25日、サステナビリティ先進都市マルメ市を視察。小売店内には環境ラベルが付いた商品やサービス、そしてコミュニケーションデザインが、街全体にはサステナブルな仕組みがあらゆる場所で見られる。

スコープグループは、従来の枠組みにとらわれない発想を求めて、スウェーデンへの視察ツアーを開催しています。スウェーデンは世界的にサステナビリティに関する先進的な取り組みを行っており、企業や団体のベストプラクティスを視察することで、その成功事例や取り組み方を学ぶことができます。長年、サステナビリティのコンサル業務に関わる株式会社ワンプラネット・カフェとともに、小売業やメーカー様向けに特化したオリジナルの視察プログラムを実施しています。

子どもたちとともに プラスチック汚染問題の解決を！



マイクロプラスチック・ストーリー アンバサダーズは、映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を応援しながらプラスチック汚染問題の解決に向けたアクションに取り組むコミュニティ。2023年8月、ニューヨーク在住の佐竹監督の来日に合わせて、初めてのリアル交流会をスコープ本社にて開催した。

マイクロプラスチック・ストーリー
Ambassadors Japan



マイクロプラスチック・ストーリー
アンバサダーズ 公式サイト



経営企画室
コーポレート広報部
小池未由子

ドキュメンタリー映画作家の佐竹敦子監督とともに、小・中学生の環境活動家をサポートするプラットフォームを展開しています。プラスチック汚染や気候変動はとても大きな問題ですが、自分たちの足元から行動して声をあげていけば社会の仕組みを変えることができます。変化の激しいこの時代、未来を作る子どもたちには、このようなスキルがますます必要になっていくことでしょう。同じ志を持った仲間と集い、学んで、アクションの輪を広げていける機会を提供していきます。

江戸時代の暮らしから学ぶ サステナブルなアイデアのコラムをウェブ連載



〈イラスト〉PIXTA

ヘッダーは江戸の町並みを描いたイラスト。浮世絵を思わせるポップなタッチが興味を喚起し、コラムへと誘導する。



連載vol.1



コンテンツクリエイティブ事業
本部リテールデザインDPT1
津川清高

江戸時代の社会には、資源を大切にし、物を大切に使う、リサイクルやリユースを中心とした循環型の暮らしが根付いていました。私たちはこの思想を現代の生活に取り入れることができないかと考え、衣・食・住のあらゆる面で過去の知恵を生かしたアクションを探り、スコープ公式サイトで循環型の暮らしに向けたアイデア紹介のコラムを連載しています。これらのサステナブルなアイデアを一人ひとりが日常生活の中で実践していくことで、持続可能な未来への道を切り開くことができると信じています。

NIGIWAI LABO会員とともに 愛知県岡崎市《QURUWA戦略》を視察



市街地の視察を終えた後、参加者でディスカッションを行い、岡崎市のまちづくりから得た気づきをその場で共有。個々の会員への落とし込みまで行った。(2023年10月3日)

NIGIWAI LABO



販わい創研
公式サイト



販わい創研
石川 孝

岡崎市が展開する《QURUWA戦略》は、2023年度グッドデザイン大賞で金賞に選ばれた注目の事例です。中心市街地の公共空間をQの字で結んだエリアの活性化事業で、行政、市民、事業者が一体となりまちづくりに取り組んでいます。市の主導により、行政にしかできない出店環境の整備・手続きサポートなどを徹底することで、空きビルには新たな店舗が次々に誕生。補助金に頼ることなく、市民参加や地域交流を大切にしている姿勢が成功のカギとなっていて、販わい創出のヒントを会員の皆様と学ぶことができました。

越境学習でキャリアの自律化を

スコープが初めて《越境学習プログラム》に参加したのは5年前。和歌山県田辺市の地域起業家育成プロジェクト《たなべ未来創造塾》の卒塾生と、首都圏のさまざまな企業の社員がチームとなり事業成長に取り組んだもので、以来、各地で行われている越境学習プログラムに5人の社員が参加しています。

越境学習とは、「ホームとアウェイを往還する（行き来する）ことによる学び」と定義されます。会社から離れ、多様な生き方、働き方の人と一個人として交わることで、自分の価値観を改めて考えるようになります。社員がこのプログラムを主体的なキャリア形成に役立ててくれることを願っています。



総務・システム
統括本部
金澤要一

越境学習プログラム（和歌山県田辺市） 地域課題への取り組みで自身を深掘り



市庁舎から望む田辺市の風景。世界遺産の熊野古道が有名な自然豊かな地域だが、人口減少により多くの課題を抱えている。

越境学習プログラムで、和歌山県田辺市にあるプロパンガス会社の課題に異業種交流チームで取り組みました。地域、会社、商品についてメンバーと討論を重ねましたが、そこで出てきた多くの問いは地域の会社、田辺の問題に留まらず、自分の地域や自分自身への問いでした。地域の実情を肌で感じ、地元企業の伴走者となることで、課題への深い理解と地域への愛着が生まれ、仕事の振り返りもできました。田辺地域で遊び、関わり、応援し、よりよいキャリア、人生にしていきたいと思います。



第二営業部
営業推進グループ
畠山幹央

越境学習プログラム（鳥取県鹿野町） 出会った仲間とアクションの実現を！



鹿野町が目指すのは「住民が幸せを感じる生活」。参加者は地域からの学びを『仕事と幸せの関係』という寸劇にして披露。

鳥取県鹿野町では、空き家や耕作放棄地の増加が大きな課題となっています。越境学習プログラムへの参加で地域の日常を実際に体験し、その現状や課題をより深く理解できました。そして、この経験を他の参加者と共有することで新たな価値観や気づきを得たのは、自身の大きな成長になったと思います。プログラムを修了しても、地域課題に取り組む仲間とつながりを持ち続け、スコープとしてだけでなく、自分自身の活動として、仲間とともに未来に向けたアクションを実現していきたいと考えています。



ソーシャル
デザイン事業部
風間悠美

未来につながる貢献を志に、**コミュニケーションデザイン**に取り組んでいます。



さまざまな情報をライト層、ディープ層それぞれのユーザーに適するように設定した。
URL: https://www.nies.go.jp/kokkanken_view/

国立環境研究所様 オウンドメディアの 企画制作運用業務案件 プロポーザルにて獲得



ソーシャル
デザイン事業部
寺林和郎

地球環境問題の顕在化で国立環境研究所各領域での研究成果の発信活発化に伴う新たなオウンドメディア立ち上げにあたり案件が公示され、これを受託しました。研究所と研究成果を理解してもらうきっかけとなるメディア構築を目指し、見やすいデザインとキャッチーなネーミング、ターゲット別に最適化した情報提供、ライト層に向けよりハードルを下げるなどをポイントにしました。



2023年12月9日、アリオ川口で開催したイベントには埼玉県大野知事が来館。レシピコンテストの表彰式を行った。

埼玉県農林部生産振興課様 令和5年度 狭山茶需要創出促進事業 実施業務



ソーシャル
デザイン事業部
風間悠美

埼玉県の特産品である狭山茶の広い周知と若年層の関心を引く施策を企画・提案。若手茶農家たちによる埼玉県茶業青年団体や県のPRを担う埼玉わっしょい大使などの協力の下、関係各所と課題を共有し、未来につながるチームワーク向上を目指しました。スコープでは、SNS運用、ウェブサイト更新、レシピコンテストやイベント運営など、年間を通して協力させていただきました。



ハロウィンペットボトルキャップアート(左)と、ひなまつりペットボトルキャップ工作の完成イメージ(右)。

株式会社イトーヨーカ堂様 子ども向けSDGsイベント 自主提案から実施へ



コンテンツクリエイティブ事業
本部リテールデザインDPT1
矢島 円

株式会社イトーヨーカ堂様に向けて、お子様が楽しくサステナブルに触れていただけるコンテンツを自主提案しました。季節催事に合わせた内容で、店頭でのペットボトルキャップアートやおうちで楽しめる工作コンテンツを制作。イトーヨーカ堂様の取り組みを推進するとともに、未来世代である子どもたちのサステナブル活動の一歩を作ることができました。



リーフレットは観音開き8ページで一部切り取って使える。イトーヨーカドーの公式キャラクターが防災対策を教えてくれる。

株式会社イトーヨーカ堂様 防災ガイドリーフレットへ 避難経路メモ欄・ 連絡先カードを提案



第二営業部
営業推進グループ
鈴木良樹

2023年は関東大震災から100年の節目であり、今一度防災への注意を改めようとの働きかけがリーフレット作成につながりました。子ども向けにイラストを多用し、切り離して使える連絡先カードや避難経路確認表など実用的な要素を多く盛り込んでいます。未来を担う子どもたちの被害を抑えるため、日頃から家族間で防災対策を行っていただけるよう願っています。



イラストを多用し、子どもの興味を引くデザインに。パブリックスペースなどの店頭ディスプレイでも同様の世界観を採用。

株式会社イトーヨーカ堂様 サステナブルハンドブックへ SDGsクイズを提案



経営企画室
経営企画部
井之上博康

イトーヨーカドー全店で《ちびっこ職場体験》イベントを開催するにあたり、配布冊子として本件を受注しました。サステナブルな取り組みへの興味獲得や理解促進のため、イラストやページ構成に工夫を凝らし、体験後アンケートでは99.4%の方が「大満足・満足」と回答してくださいました。おかげさまで、2024年度も当社指名で制作依頼をいただいています。



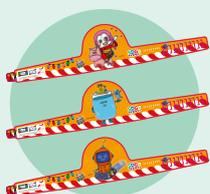
不要のアクリルツールは緑川化成工業株式会社様に回収とリサイクルを依頼。引替えに使用済みプラスチック買取証が渡される。

株式会社ロフト様 アクリルツール 再生アクリル材への変更 提案およびリサイクル



第三営業部
営業推進グループ
林由佳理

株式会社ロフト様では、《ロフトグリーンプロジェクト》を通じ持続可能な社会への貢献に取り組んでいます。このプロジェクトに合致するのではと考え、ロフト全店舗で使用中のアクリル製ツールを順次再生アクリルに切り替える提案をし、採用されました。旧アクリルツールは再資源化され、新たな製品に生まれ変わります。リサイクルの買取金は日本赤十字社へ寄付しました。



キャラクターキャップ

出題スポットに貼り出した全4問のクイズに回答してお菓子をゲット。参加者プレゼントにキャラクターキャップも用意。

セブンパーク天美様 みらいたうん SDGsクイズラリー



関西支社
森本 竜太

セブンパーク天美2周年記念のイベントとして、株式会社セブン&アイ・クリエイティブリンク様が展開するSDGsコンテンツ《みらいたうん》を活用し、子どもたちに楽しくSDGsへの理解を深めてもらうクイズラリーを実施しました。参加者へ配布したキャップには、FSC®認証材および管理原材料から作られた紙と植物性インキを使い、環境に配慮した水なし印刷で制作しました。



シートベルトやエアバッグ、被災地で使用したブルーシート、放置竹林から伐採した竹など、廃棄された素材を再利用。

プライムツリー赤池様 夏休み自由研究 アップサイクルワークショップ



ソーシャル
デザイン事業部
岡本 優人

2024年に7周年を迎える愛知県日進市のプライムツリー赤池。開業とともに周辺の再開発が進んだ赤池町では、多くの子どもたちが小学生へと成長しています。そこで、夏休みの自由研究に向け、子どもたち自身がアップサイクル素材でテーマを考えるきっかけとなるワークショップを実施しました。SCが環境への配慮を考える場・学ぶ場となることを目指しています。

オリジナル調査レポート 買い物のサステナビリティ意識 店舗戦略へのヒントを探る



データドリブン
プロモーション事業
本部DDP DPT2
今井 洋

6月の環境月間に向け、スコープは2022年5月に消費者のサステナビリティに対する意識調査を実施し、2年を経て同じ質問で定点調査しました。商品の店舗選択や好感度、愛着、そして最終的な商品購入での変化と流通店舗におけるアクションのヒントを紹介します。

調査回答から見たこと

1. サステナビリティへの関心は男性・中高年層にも広がり、性別・世代を問わない傾向へ。
2. 認識と実践のギャップ……行動は必要、でも「何をすればいい?」「コストが心配」で行動躊躇。^{ちゅうちゅう}
3. 迷いのある中で、エコバッグ、フードロス、地元利用など日々の買い物での取り組み実践は増加・浸透。
4. 物価高にも対応。消費期限近での割引、必要量だけの販売がロス削減行動を後押し。
5. 地元愛からのサステナビリティ。地産地消への関心増加、消費者行動はよりエシカルな方向へ。
6. サステナブルな商品に対する支出は、従来価格の10%増まで。それ以上の価格上昇には抵抗あり。

【集計結果の一部】サステナブルな取り組みに対する考え方・価値観 (N=1,000)

将来のためにも、日頃からサステナブルな取り組みを行うことは必要だと思う。	80.7%
現在の世の中をより良くするためにも、日頃からサステナブルな取り組みを行うことは必要だと思う。	78.4%
日頃から企業や自治体などの組織がサステナブルな取り組みを実践することは社会的責任の一つだと思う。	76.4%
日頃から自分自身がサステナブルな取り組みを実践することは社会的責任の一つだと思う。	73.8%
過去の反省のためにも、日頃からサステナブルな取り組みを行うことは必要だと思う。	71.6%
サステナブルな取り組みの必要性はあるとしても、実際に個人で実践している人は少ないと思う。	57.0%
サステナブルな取り組みを行うには、お金がかかると思う。	51.2%
サステナブルな取り組みの必要性はあるとしても、具体的にどのようなことを行えばよいか分からない。	47.4%
周りの人が日頃からサステナブルな取り組みを行っているか気になる。	42.8%
日頃からサステナブルな取り組みをしなければいけないプレッシャーを感じる。	33.5%

*20代~60代合計、性別・年代別スコア

*「①当てはまる」「②どちらかといえば当てはまる」「③どちらともいえない」「④どちらかといえば当てはまらない」「⑤当てはまらない」の5段階のうち、①+②のスコア

現在や未来のために「日頃からサステナブルな取り組みは必要」と考えている一方で、約半数の人は「実践している人は少ないと感じる」「取り組みに伴う費用の負担を感じる」「具体的な方法を知らない」と回答しており、「理想」と「現実」の隔たりがうかがえます。

【全体考察】

消費者にサステナブルな行動を選択しやすくさせるだけでなく、流通店舗が社会全体のサステナビリティへの貢献度を高める手段を考察しました。

- 社会全体でサステナビリティへの意識は顕著に高まり、特に男性や中高年層の変化が目立ちます。多くの人が日常行動で貢献に努力する一方、具体的な方法が分からない、コスト増への不安など、行動に対するハードルが高い人もいます。
- 物価上昇の中でも、経済的利益を直接感じるサステナブルな取り組みや商品に対しては消費行動を起こしています。しかし、消費者が受け入れる上昇率を見極め、価格戦略を練る必要があります。
- 流通店舗が提供するサステナブルな取り組みは、人々が積極的に参加する機会を創出し、サステナビリティ普及に重要な役割を果たしています。

- 地産食品購入へのポイント付与「ローカルフードプログラム」、季節限定サステナブル商品やローカルフードのポップアップコーナーなどは、消費者が持続可能な商品を見つかることが可能なため、地元生産者やメーカー支援につながります。
- 省エネルギー型の照明や装飾、再生可能エネルギーなど、店舗設計にエコフレンドリーな施策を導入することも、環境への配慮を消費者に感じさせる方法といえるでしょう。

さらに詳しい集計データを含む調査結果は、スコープのウェブサイトをご覧ください。

https://sp-lab.scope-inc.co.jp/articles/ddp_report_2406-1/

※本情報の引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願いいたします。

未来へつながるアクションを！世界/日本のSDGsイベントをピックアップ

（「国際連合制定国際デー」「見本市展示会情報」よりスコープグループステークホルダーが活動しやすい視点で抽出）

2024

■ 囲み：見本市 / 展示会情報

6 JUN.

環境月間

- 1 **国際親の日**
子どもを育てるすべての親に感謝を表す。
- 3 **世界自転車デー**
自転車のさらなる普及に取り組み、人々が健康で平和に暮らせる社会への貢献を目指す。
- 5 **世界環境デー**
環境改善活動を組織する政府、個人およびコミュニティ団体とともに、環境保全への意識を高める。
- 8 **世界海洋デー**
世界が共有する海が生活に果たす重要な役割、海を守る大切な方法について認識を高める。
- 18 **持続可能な食文化の日**
持続可能な食料生産や生物多様性の保全を促進し、貧困の削減、環境保護などに向け持続可能な食文化の重要性を認識する。
- 26 **自治体・公共Week、**
地方創生EXPO、
28 **自治体向けサービスEXPO、**
スマートシティ推進EXPO、
自治体DX、
地域防災EXPO、
インフラメンテナンス展
会場：東京ビッグサイト

7 JUL.

- 3 **国際サステナブルグッズ**
EXPO【夏展】
5 **エコ・エシカル・オーガニック**
など、環境に配慮したサステナブル
製品が一堂に出展する商談展。
会場：東京ビッグサイト
- 17 **働き方改革EXPO**
【名古屋展】
19 **働き方改革の実現を促進する**
ための展示会。
会場：ポートメッセ名古屋
- 30 **国際フレンドシップ・デー**
人、国、文化の友好関係が平和への
努力を促し、コミュニティ間の
懸け橋になることを再認識する。

8 AUG.

- 19 **世界人道デー**
世界各地で起きている紛争や自然災害などの人道問題に焦点を当て、支援の輪を広げるとともに困難な現場で人道支援に携わる人々に思いを寄せる。

9 SEP.

- 4 **グリーンファクトリー**
EXPO秋
6 **新規開催!**
工場のカーボンニュートラルを実現する技術が一堂に出展。
会場：幕張メッセ
- 7 **青空のための**
きれいな空気の国際デー
すべての国々が大気環境の改善に一層取り組むことを促す。
- 20 **世界クリーンアップ・デー**
社会の行動を変えるため、地球人口の5%を動員し大規模なごみ拾いを開催。
- 21 **国際平和デー**
すべての国や人々にとって共通の理想である「国際平和」を記念し、推進する。
- 25 **国際サステナブルグッズ**
EXPO【関西展】
27 **エコ・エシカル・オーガニック**
など、環境に配慮したサステナブル
製品が一堂に出展する商談展。
会場：インテックス大阪
- 29 **食料のロスと廃棄に関する**
啓発の国際デー
より良いフードシステム構築のため、食品ロス削減への変革に向けた行動を公的機関や民間に呼びかける。

10 OCT.

世界食料デー月間

- 1 **国際高齢者デー**
高齢者の全面的な社会参加を阻む障壁を除去し、その権利と尊厳を守る。
- 2 **SMART ENERGY WEEK**
| 脱炭素経営 EXPO【秋展】
4 **世界最大級の新生エネルギー**
総合展。
会場：幕張メッセ
- 2 **働き方改革EXPO**
【東京展(秋)】
4 **働き方改革の実現を促進する**
ための展示会。
会場：幕張メッセ
- 13 **国際防災の日**
危機意識と防災に関するグローバル文化を推進する。
- 15 **サステナブル ファッション**
EXPO【秋展】
17 **サステナビリティを考慮した**
ファッション製品・素材が世界中から出展。
会場：東京ビッグサイト
- 16 **世界食料デー【FAO】**
世界中の誰もが、安全で多種多様な栄養価の高い食料にアクセスできるように認識を向上させる。
- 24 **国連デー**
事務総長報告『私たちの共通の課題』を拡大し、国連憲章の目的と原則を再確認する。
- 29 **サステナブル**
マテリアル展【東京展】
31 **世界最大規模のサステナブル**
マテリアルの総合展。
会場：幕張メッセ

 囲み：見本市 / 展示会情報

11 NOV.

20 世界子どもの日

国際的な連帯を推進し、世界の子どもたちの相互理解と福祉の向上を目指す。

20 SMART ENERGY WEEK
 \ | 脱炭素経営 EXPO【関西展】

22 世界最大級の新エネルギー総合展。
会場：インテックス大阪

20 働き方改革EXPO
 \ 【関西】

22 働き方改革の実現を促進するための展示会。
会場：インテックス大阪

12 DEC.

3 国際障害者デー

障害者の包摂に関連する重要な課題の解決を支援し、それら課題に対する意識を向上させ、すべての人が参加できる社会がもたらす恩恵に焦点を当てる。

4 エコプロ
 \ | SDGs Week EXPO

6 地球環境課題の解決に向けた数多くの取り組みを紹介する。
会場：東京ビッグサイト東ホール・オンライン
主催：日本経済新聞社ほか

10 人権デー

あらゆる場所のあらゆる人々のために、人権を推進し、尊重することを呼びかける。

2025

1 JAN.

26 クリーンエネルギーの国際デー

人と地球のためのクリーンエネルギーへの公正で包括的な移行に向け、意識の向上と行動を図る。

2 FEB.

4 国際友愛デー

思いやりの価値、信仰に対する理解、相互尊重といった平和で繁栄した社会の基礎となる価値を祝う。

11 科学における女性と女児の国際デー

女性と女児が科学技術分野において果たす重要な役割を認識し、評価する。

19 サーキュラー・エコノミー EXPO【春】

21 サーキュラーデザイン、サステナブルマテリアル、サステナブル製品・技術を集めた展示会。
会場：東京ビッグサイト

3 MAR.

1 世界海草デー

海草は生態系の健全性や気候アクションにとって非常に重要であることを認識する。

3 世界野生生物の日

環境保全上だけでなく、経済的、文化的にも重要な野生動物の保護の取り組みを強化する。

8 国際女性デー

平和と安全、開発における女性の役割の拡大、組織やコミュニティにおける女性の地位向上などによる可能性の広がりを確認するとともに、今後のさらなる前進に向けて話し合う。

20 国際幸福デー

幸福が世界中の人々の共通の目標・願望であることを認め、公共政策に反映されるべきものとし、さらなる幸福を願う。

21 国際森林デー

すべての種類の森林の重要性を祝い、森林への意識を高める。

22 世界水の日

持続可能な淡水資源管理の促進に対する人々の意識を啓発し、各国の淡水保全行動につなげる。

30 ごみゼロ国際デー

持続可能な消費・生産パターンを促進し、循環型社会への移行を支持するとともに、廃棄物ゼロへの取り組みを高める。

4 APR.

6 開発と平和のためのスポーツの国際デー

チームワークの模範であるスポーツによる平和と開発を促進し、寛容と相互理解を育む。

7 世界保健デー [WHO]

すべての人々の健康を増進・保護するため、他の国々との相互協力を喚起する。

22 国際マザーアース・デー

空気、水、土壌といった、人類にとって最も重要な自然界との関係性を認識する。

5 MAY

15 国際家族デー

家族に関する問題への認識を高め、適切な行動を奨励する。

16 平和に共存する国際デー

平和と持続可能な開発を達成するため、互いを受け入れ思いやり、対立をなくし和解を促す。

20 世界ミツバチの日

作物の生産を助け、生物の多様性向上や生態系を維持するなど、ミツバチを含む花粉媒介者が担う重要な役割を認識する。

21 対話と発展のための世界文化多様性デー

世界各国の文化の多様性を促進し、理解を深める。

22 国際生物多様性の日

生物多様性の喪失危機と、その保全の大切さを考える。

